

既存施設活用・品質重視タイプ経営モデル（トマト土耕栽培）

施設はそのままに、最低限の設備投資と環境制御で、品質を維持しつつ増収を目指すタイプです。直売や契約栽培などの消費者ニーズに応えるため、作型を組み合わせることにより、品質を維持し販売期間を長期化します。

経営モデルの前提

経営規模	30a (10a × 3棟)
労働力	家族労働 2.5 人
作型	年複数作型を栽培 促成+半促成+抑制
目標収量	15t/10a
目標平均単価	400~450円
目標糖度	6~7度



夏場の高温時のミスト利用



直売所での販売風景

経済性試算（10aあたり）

収量	15,000	kg
単価	425	円/kg
粗収入	638	万円
経営費	445	万円
農業所得	193	万円
所得率	30	%
(経営費内訳)		金額 (万円)
種苗費	12	
肥料費	7	
農薬費	14	
諸材料費	17	
施設・機械費*	215	
内 環境制御関連	46	
光熱水費	64	
出荷経費	116	

*施設・機械の減価償却費、修繕費等。
なお、減価償却済みの施設や機械を使用している場合は実態に応じて計算する。

<環境制御のポイント>

- ・半促成栽培では2~4月にCO₂施用をする。(抑制、夏秋栽培でもCO₂施用の効果が報告されている。)
- ・高温期はミスト及び白黒マルチを利用。
- ・収量を確保するには極端な節水栽培は避け、成育バランスを見ながらかん水で草勢をコントロールする。

<品種>

- ・抑制、夏秋栽培は黄化葉巻病のリスクが高いため、耐病性品種が望ましい。(桃太郎ホープ、麗句等)
- ・半促成栽培は食味重視で品種を選定する。(サンロード、桃太郎ファイト、桃太郎J等)

環境制御に係る主要な 施設・機器装備	取得 価格 (万円)	年あたり 償却額 (万円)
モニタリング機器	23	3.3
複合環境制御盤 (センサー込み)	69	9.8
CO ₂ 発生装置	50	7.1
ミスト発生装置	182	26.0
合計	324	46.2

設置費等含む 税込み価格

<試算の前提条件>

- ・促成20a+半促成10a+抑制10aを栽培するとして10aあたりを算出した。
- ・2400本/10a。自家育苗。
- ・量販店等出荷(60%)、共同直売所出荷(40%)

既存施設活用・品質重視タイプ栽培モデル（トマト土耕栽培）

(作型：9月まき、1～5月収穫、12段どり) 目標収量 12 t/10a
 (作型：11月まき、3～7月収穫、12段どり) 目標収量 7 t/10a
 (作型：7月まき、9～1月収穫、12段どり) 目標収量 10 t/10a

